

広島市の下痢症患者由来サルモネラの血清型別（2008 年）

生 物 科 学 部

は じ め に

広島市内で発生した下痢症の状況を把握するため、医療機関等で分離された菌株について疫学的な解析を続けている。

2008 年に広島市内の病院、臨床検査センターなどの医療機関で分離され、当所に分与されたサルモネラ菌株(チフス菌を除く)の血清型別および薬剤感受性試験の結果について、その概要を報告する。

方 法

1 材料

2008 年に医療機関から分与されたサルモネラ 29 株を供試菌株とした。

2 血清型別

市販のサルモネラ診断用免疫血清(デンカ生研)を用い、常法に従い血清型別を行った。

3 感受性試験

ABPC, SM, CP, TC, NA, KM の 6 薬剤に対する感受性を、1 濃度ディスク法で測定した。

結 果

1 サルモネラの分離状況

過去 4 年間の分離株数を表 1 に示した。2008 年は 29 株で、2005 年以降横ばい状態の検出傾向にあった。

表 1 年別サルモネラ分離状況

0 群	年別分離菌株数			
	2005	2006	2007	2008
04	7	8	12	8
07	12	9	6	12
08	6	0	2	3
09	10	4	8	6
計	35	21	28	29

2 血清型別検出状況

血清型別検出状況を表 2 に示した。分離された 29 株は 15 種類の血清型に分けられた。*S. Enteritidis* が 6 株(20.7%)で最も多かった。

3 薬剤耐性

分離菌株 4 種の薬剤耐性パターンを表 3 に示した。*S. Enteritidis* は TC, NA, *S. Typhimurium* は ABPC/CP, *S. Infantis* は NA, SM/TC/NA の薬剤耐性パターンが認められた。

謝 辞

菌株を分与していただきました広島市立舟入病院をはじめ各医療機関に対し深謝いたします。

表 2 血清型別検出状況

血清型	分離菌株数
04 <i>S. Typhimurium</i>	3
<i>S. Saintpaul</i>	2
<i>S. Stanley</i>	2
<i>S. Agona</i>	1
07 <i>S. Infantis</i>	3
<i>S. Thompson</i>	3
<i>S. Montevideo</i>	2
<i>S. Braenderup</i>	1
<i>S. Bareilly</i>	1
<i>S. Oranienburg</i>	1
<i>S. Mikawashima</i>	1
08 <i>S. Hadar</i>	1
<i>S. Litchfield</i>	1
<i>S. Newport</i>	1
09 <i>S. Enteritidis</i>	6
計	29

表 3 薬剤耐性パターン

耐性パターン	<i>S. Enteritidis</i>	<i>S. Typhimurium</i>	<i>S. Infantis</i>	<i>S. Thompson</i>
TC	1			
NA	2		1	
ABPC/CP		1		
SM/TC/NA			1	
感受性	3	2	1	3
計	6	3	3	3